

戸矢研究室

応用人文学

人間・社会系部門

文化をめぐる人文と工学の研究グループ、複雑社会システム研究センター



社会・文化の次元を加えた新たな文理融合の推進（「文理実連携」）

文理融合の実践のためには、全体を俯瞰し、効果的なマッチングを考え、そして実践を進めていく、三段階のステップが必要になります。こうした、異分野を緩衝する中間地帯の設計こそ重要であると考え、文理の全領域を学ぶ東大EMP（エグゼクティブ・マネジメント・プログラム）修了生有志の実務家の協力を得て、広く文化・社会を念頭に置き、実務家も加えたあらたな文理融合のあり方を検討し、展開しています。戸矢理衣奈准教授の文系出身で実務経験を持つとともに、EMPを修了して理系領域を学んだ経験を活かし、有益かつダイナミックな領域横断と連携の実現に努めています。

生研では2019年7月より「文化×工学研究会」を継続的に開催し、同会を契機に2020年4月には8名の教員による「文化をめぐる人文と工学の研究グループ」が発足しました。こうした活動から様々なプロジェクトが展開しています。例えば教養学部1-2年生(文理共通)に向けた生研教員によるオムニバス講義「リベラルアーツとしての工学」の開講、東大と金融庁における初の包括的連携協定の締結、生研・先端研有志の連携による、指揮者の山田和樹氏をはじめ、日本を代表する音楽家をお迎えしての「駒Ⅱ音楽祭」の定期的な開催などが挙げられます。

歴史研究の工学・社会への応用

戸矢准教授の元々の専門である、美意識をめぐる社会史/文化史やファッション・化粧品などの感性産業の経営史について、継続的に研究を行っています。同時に、上記のように蓄積された人文知の工学および社会への展開に取り組んでいます。

近未来ライフスタイルを想定した「デザイン」への応用

豊島ライフスタイル寄付研究部門(2018.10-2021.9)にて、近未来ライフスタイルを想定したうえで、生研に蓄積されたシーズを活かしたプロトタイプ（コンセプトモデル）の制作にチームとして取り組みました。この経験をもとに、文系出身の知見をデザインに活かします。



本質的に工学に関連するテーマで、文化や芸術に関連する領域の第一線で活躍されている講師を学内外から招聘する「文化×工学研究会」を学内教職員・EMP修了生にオープンな形で実施しています（左・現在はオンライン）。同会の議論の発展的な継続展開を目指して「文化をめぐる人文と工学の研究グループ」が結成。フォーラム「音楽の可能性」等を実施。2023年度には「リベラルアーツとしての工学」講義の開講が実現しました。

